

(別記)

令和5年度射水市農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当地域は、担い手への集積率が約87%となっているが、次世代への後継者不足が近々の課題となりつつある。現在、法人化への誘導や新規就農者の参画が進められているものの就農者の確保が低迷している。基幹作は水稲・大麦・大豆が大宗を占めている。

年々、生産調整面積の増加に限界が見られ、ブロックローテーションのサイクルが、重複する等のことから、圃場の地力低下や糸状菌等の病害も深刻な問題となっている。

高収益作物の振興は、今後生産コスト増(肥料価格等)の点から面積拡大が鈍化すると見られ、販売価格の推移がどのようになるのか懸念される。

今後、いかに安定した農業運営を図るか、如何に農地の荒廃を防止するかが問題であり、国や県・市の支援がどのように機能し維持されていくのかが課題である。

2 高収益作物の導入や転作作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

水田化率の高い当地では、中山間地を除いては海拔の低い地帯が多いことや潟米積型土壌で湿田地帯が多いことから湿害対策が重要なポイントである。

産地としては、比較的肥沃とされてきたが、地力の減耗は否めない状況である。

このことから、地力の回復に向けた土作りと肥料等生産コストの低減に努めるなどの基本技術の再構築を図る。従前からの重点園芸作物である「キャベツ」「えだまめ」「しろねぎ」等を重点に面積拡大を図りGAPの推進と産地化の堅持に取り組む。

また、販路拡大に於いては、契約栽培も視野に販売ルート掘り起こしに努める。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

当地域は、水田化率(94.8%)が高く、水稲を主体に生産されてきたが、生産調整については、大麦・大豆が大半を占めている。担い手集積率が高いことから、団地化でのブロックローテーションにより行われ排水対策も徹底しており今後も推進する。

畑地化については、一部育苗ハウス利用の園芸作物栽培施設等に該当する農業者への推進に取り組む。

4 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

- ・生産調整の自主的取り組みが重視される中、本市産米の作付比率の適正化や適切な土作りを基本に品質の向上を図り、ブランド力の強化・販路の拡大を図る。

(2) 備蓄米

- ・生産調整の一手法と位置付け、需要に応じた生産に取り組む。

(3) 非主食用米

ア 飼料用米

- ・需要に応じた取り組みを進める。

イ 米粉用米

- ・需要に応じた取り組みを進める。

ウ 新市場開拓用米

- ・需要に応じた取り組みを進める。

エ WCS 用稲

- ・需要があれば取り組む。

オ 加工用米

- ・備蓄米と同様に生産調整の一手法として、本転作の困難な地域へ進める。
また、収量性の高い品種や直播栽培等による収量・生産コスト体現を進める。

(4) 麦、大豆、飼料作物

- ・消費者動向や実需者ニーズの動向に応じた生産と製品の高位平準化を進める。
- ・大麦、大豆共に、担い手への農地集積を進め額縁排水等を徹底し収量の安定化と品質控除を図る。 大麦跡の二毛作大豆への面積拡大を進める。

(5) そば、なたね

- ・そば、なたねは、需要に応じた作付けを進める。

(6) 地力増進作物

- ・基幹作としてではなく、本作：水稻・大麦・大豆・高収益作物等の後作や前作として進める。 栽培支援として、種子に対する県・市・JAの補助金を充てる。

(7) 高収益作物

- ・担い手を中心に、重点園芸作物（キャベツ、えだまめ、しろねぎ、こまつな、いちご）の産地化に取り組む。 また、園芸振興作物として（かぼちゃ、とうもろこし、さといも、ブロッコリー、にんじん、たまねぎ、ばれいしょ等）を位置づけ、地産地消運動と連携した取り組みを進める。

5 作物ごとの作付予定面積等

～

8 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり

別紙

5 作物ごとの作付予定面積等

(単位:ha)

作物等	前年度作付面積等		当年度の作付予定面積等		令和5年度の作付目標面積等	
		うち 二毛作		うち 二毛作		うち 二毛作
主食用米	1948		1950		2000	
備蓄米	249		188		200	
飼料用米	76		76		80	
米粉用米	21		21		24	
新市場開拓用米	0		0		0	
WCS用稲	0		0		0	
加工用米	43		105		120	
麦	499		525		500	
大豆	495	159	495	155	512	162
飼料作物	0		0		0	
・子実用とうもろこし	0		0		0	
そば	12	11	14	12	1	
なたね	0		0		0	
地力増進作物	68	68	68	68	0	0
高収益作物	62.4		63.3		56.6	
・野菜	62	10	63	10	55	
・花き・花木	0.4		0.3		1.1	
・果樹	0		0		0.5	
・その他の高収益作物	0		0		0	
その他	0		0		0	
・〇〇	0		0		0	
畑地化	0		5.12		0	

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理番号	対象作物	使途名	目標	前年度（実績）	目標値
1	大麦	大麦担い手集積加算	担い手集積の拡大	(R4年度) 499ha (R3年度) 462ha (R2年度) 457ha	(R5年度) 500ha
2	大麦	大麦技術加算	設定単収以上の経営体割合 (交付対象面積) 参考：地域の平均単収	(令和4年度) 90% (52/58) (472ha) 306kg/10a (令和3年度) 83% (47/56) (366ha) 241kg/10a (R2年度) 53% (31/58) (273ha) 200kg/10a	(令和5年度) 81% (50/62) (410ha) 250kg/10a
3	大豆	大豆担い手加算	担い手集積の拡大	(R4年度) 336ha (R3年度) 321ha (R2年度) 299ha	(R5年度) 350ha
4.6	大豆（基幹作・二毛作）	大豆技術加算	設定単収以上の経営体割合 (交付対象面積) 参考：地域の平均単収	(令和4年度) 57% (27/47) (317ha) 110kg/10a (令和3年度) 60% (31/51) (352ha) 160kg/10a (令和2年度) 52% (26/50) (284ha) 119kg/10a	(令和5年度) 70% (36/51) (370ha) 200kg/10a
5	大豆（二毛作）	大麦跡高度利用加算	大麦跡圃場の利用率 【二毛作/大麦（基幹作）】 (二毛作面積：大豆)	(R4年度) 32%：159ha (R3年度) 40%：157ha (R2年度) 34%：159ha	(R5年度) 34%：162ha
7～10	・えだまめ、白ねぎ、キャベツ 基幹作、二毛作 ・こまつな、いちご 基幹作	重点園芸作物基本助成 (基幹作、二毛作)	作付面積拡大	(令和4年度) 55ha (令和3年度) 55ha (令和2年度) 52ha	(令和5年度) 56ha
11～14	・えだまめ、白ねぎ、キャベツ 基幹作、二毛作 ・こまつな、いちご 基幹作	重点園芸作物集積加算 (基幹作、二毛作)	園芸作物の定着化と拡大	(令和4年度) 54ha (令和3年度) 55ha (令和2年度) 52ha	(令和5年度) 56ha
15・16	・えだまめ、白ねぎ、キャベツ 基幹作、二毛作	重点園芸作物担い手加算	担い手への園芸作物の定着化と土地の高度利用により生産性の向上	(令和4年度) 50ha (令和3年度) 50ha (令和2年度) 47ha	(令和5年度) 50ha
17・18	I類：かぼちゃ、とうもろこし、さといも、ブロッコリー、 にんじん、たまねぎ、ばれいしょ、にんにく、もも II類：小菊、ストック、へちま、ニラ、水菜、トマト (基幹作)	園芸振興作物助成	少量多品目から対象作物を絞り込んだ栽培の定着化	(令和4年度) 7ha (令和3年度) 8ha (令和2年度) 9ha	(令和5年度) 12ha
19	そば（基幹作）	そば作付助成	需要に応じた供給量の確保	(令和4年度) 1ha (令和3年度) 1ha (令和2年度) 1ha	(令和5年度) 2ha

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。

7 産地交付金の活用方法の概要

新様式(公表用)

#REF!

協議会名:

整理番号	用途 ※1	作期等 ※2	単価 (円/10a)	対象作物 ※3	取組要件等 ※4
1	大麦担い手加算	1	3,000	大麦	団地化への支援
2	大麦技術加算	1	1,600	大麦	額縁排水溝の設置・設定単収(193kg/10a以上)
3	大豆担い手集積加算	1	5,300	大豆	団地化への支援
4	大豆技術加算	1	1,600	大豆	額縁排水溝の設置・設定単収(121kg/10a以上)
5	大麦跡高度利用加算(大豆二毛作)	2	8,200	大豆	大麦跡大豆の作付へ支援
6	大豆技術加算(二毛作)	2	1,600	大豆	額縁排水溝の設置・設定単収(121kg/10a以上)
7	重点園芸作物基本助成	1	39,100	野菜	えだまめ、白ねぎ、キャベツ
8	重点園芸作物基本助成(二毛作)	2	39,100	野菜	戦略作物跡のえだまめ、白ねぎ、キャベツ
9	重点園芸作物基本助成(二毛作)	2	8,200	野菜	上記作物同士の二毛作
10	重点園芸作物基本助成	1	39,100	野菜	こまつな、いちご
11	重点園芸作物集積加算	1	15,600	野菜	えだまめ、白ねぎ、キャベツ20a以上
12	重点園芸作物集積加算(二毛作)	2	15,600	野菜	えだまめ、白ねぎ、キャベツ20a以上
13	重点園芸作物集積加算(二毛作)	2	8,200	野菜	上記作物同士の二毛作20a以上
14	重点園芸作物集積加算	1	8,200	野菜	こまつな、いちご6a以上
15-1	重点作物担い手加算(基幹作)	1	8,200	野菜	えだまめ、白ねぎ、キャベツを作付けする担い手
15-2	重点作物担い手加算(基幹作)	1	8,200	野菜	こまつな、いちごを作付けする担い手
16	重点作物担い手加算(二毛作)	2	8,200	野菜	えだまめ、白ねぎ、キャベツを作付けする担い手
17	園芸振興作物助成Ⅰ類	1	33,000	野菜	Ⅰ類:かぼちゃ、とうもろこし、さといも、ブロッコリー、にんじん たまねぎ、ばれいしょ、にんにく、もも
18	園芸振興作物助成Ⅱ類	1	33,000	野菜	Ⅱ類:小菊、ストック、へちま、にら、水菜、トマト(基幹作)
19	そば助成(基幹作)	1	0(上限20,000円)	そば	そば(基幹作)

- ※1 二毛作及び耕畜連携を対象とする使途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は使途の名称に「〇〇〇(二毛作)」、耕畜連携の場合は使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携)」と記入してください。
ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができるものとします。
なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携・二毛作)」と記入してください。
- ※2 「作期等」は、基幹作を対象とする使途は「1」、二毛作を対象とする使途は「2」、耕畜連携で基幹作を対象とする使途は「3」、耕畜連携で二毛作を対象とする使途は「4」と記入してください。
- ※3 産地交付金の活用方法の明細(個票)の対象作物を記載して下さい。対象作物が複数ある場合には別紙を付すことも可能です。
- ※4 産地交付金の活用方法の明細(個票)の具体的要件のうち取組要件等を記載して下さい。取組要件が複数ある場合には、代表的な取組のみの記載でも構いません。